

資料 1 字幕の基本ルール (Rev. 09-3)

<p>1</p>	<p>時間制限：1 秒当たり4 文字（必要に応じて最大5文字）。</p> <p>スポットティング（＝台詞の長さを測る作業）によって得られたセリフの発話継続時間を元に字幕の文字数を計算。例えば、セリフの長さが2.4 秒の場合 <math>2.4 \times 4 = 9.6</math> で最大10文字。セリフの長さが3.4 秒の場合 <math>3.4 \times 4 = 14.4</math> で最大15 文字（この場合2 行に分ける→ルール2 参照）となる。</p> <p>注）欧文の場合は1 秒当たり12文字を標準とする。</p>
<p>2</p>	<p>行幅制限：1 行当たり最大13文字（行数は最大2行まで）。</p> <p>ただし、字幕制作会社や担当プロデューサーの判断によって1 行当たりの文字数は±3 文字程度の幅で変動することがある。最近では1 行あたり10 文字まで（したがって字幕 1 枚当たり最大2 行20文字）に制限する傾向がある。</p> <p>注）欧文の場合は1 行当たり最大32ないし33文字で、同じく2行まで。</p>
<p>3</p>	<p>字幕 1 枚の最大秒数は6.5秒以内</p> <p>→1 画面の字幕の最大字数が1行=13 文字／2 行まで（ルール1）で、1秒当たり4文字（ルール2）とすると、字幕 1 枚の最大秒数はおよそ<math>26 \div 4 = 6.5</math> 秒という計算になる。</p>
<p>4</p>	<p>読点は半角スペース、句点は全角スペースで表す。</p> <p>字幕に句読点は入れない。代わりに半角または全角スペースを入れる。スペースは1 行13文字の字幕幅制限には半角=0.5文字、全角=1文字分としてカウントする。ただし、1秒4文字の文字数制限にはカウントしない。</p> <p>例）ドロシー ちょっと待って （文字数=11文字／字幕幅=12文字）</p>
<p>5</p>	<p>数字は一桁（表記は全角）の場合 1 文字としてカウントし、2桁以上（表記は半角）の場合0.5文字としてカウントする。</p>
<p>6</p>	<p>音引き（「カード」や「ハート」など）や促音（「キャッシュ」や「ブティック」など）はいずれも1文字として数える。</p>
<p>7</p>	<p>通例、感嘆符、疑問符、リーダーなどの記号は（1秒当たり4文字の）対時間制限文字数としてはカウントしないが、（1行当たり最大13文字の）字幕行幅制限としてはカウントされる。</p> <p>感嘆符（！） 1 文字分                      疑問符（？） 1 文字分          ダーシ（—） 1または1.5文字分              3点リーダー（…） 1 文字分</p> <p>例）そんな馬鹿な... （文字数=6文字／字幕幅=7文字分）</p> <p>注1）字幕が次のコマにわたる場合は、原則として当該字幕の末尾に「ダーシ」（—）を添えてこれを示す。ただし、ダーシがなくてもつながりが明瞭で、かつ読み違える可能性がない場合はこの限りでない。3点リーダーは言い淀みや非完了文の末尾に添える。疑問符は、疑問文であることが明らかな場合は不要（例：「なぜ 返事をしないの」 例：「行った？」）</p> <p>注2）ひとつの画面に2 つの字幕を入れる場合は、以下のように各行頭にハイフンを加える。ハイフンは字数にカウントしない。</p> <p>- ドロシー おやめ！          - だって…</p>
<p>8</p>	<p>単語の途中で改行しない（13文字制限を機械的に適用せず、適切な意味の切れ目で改行する）</p> <p>（×） そんなことは 君の顔を見ればわかるさ                      （ ） そんなことは 君の顔を見ればわかるさ</p>